

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第11回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ
問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和4年度）	5

令和5年3月10日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	×	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。				
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	C	a						
		5.河道縦横断	7	主	河積変化率は、至近3年間の変動幅の範囲を下回っていることから「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	C	c						
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	C	b						
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	c	c						
	(2)土石流等の土砂災害の発生	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価され、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される(参考:令和3年度評価)	A	b	○					
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18										
	(3)自然景観の消失	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△		【評価コメント】 令和4年度は、ダム堆砂、河道縦横断、土砂除去量、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、自然景観の消失、産業基盤の流出)、湧水緩和機能の低下で「悪化傾向」、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、自然景観の消失)、漂着物量、河道縦横断で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目で概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。			
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、一部地点を除き大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.7点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a						
		30.ヒアリング	28		景観についての森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		ヒアリングの結果、全ての森林管理者から「維持傾向」及び「普通状態」の回答を得た。	B	b	△					
	(5)産業基盤の流出	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		27.流木処理実績	35		至近3年間と比較すると「改善傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	A	a						
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c						
16.路網密度		37		耳川計画区で微増していることから「改善傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。(参考:令和3年度評価)	A	a							
30.ヒアリング		38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c							
(6)湧水緩和機能の低下	13.流況	41		至近3年間と比較して「悪化傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	C	b	×						
(7)洪水緩和機能の低下	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
(8)砂防施設容量減少	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、余裕率は変化していないことから「維持傾向」と評価される。状態は、水通し天端の上まで堆積していないことから「良い状態」と評価される。	B	a	○						

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向
 【状態】 a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル
 △: 普通のレベル
 ×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明員	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度低下	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	C	b	×				
	(10)利水容量の減少	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△				
	(11)取水口の埋没	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△				
	(12)放流設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和4年度は、至近3年間と比較すると、「改善傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	A	a	○	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 令和4年度は、ヒアリング（漁獲量（内水面）、水質に関して「悪化傾向」、また水質、ヒアリング（漁獲量（内水面）、河床材料、魚類）で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。			
		19.写真観測（ダム流木到達状況）	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-					
	(13)利水設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和4年度は、至近3年間と比較すると、「改善傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	A	a	○				
		19.写真観測（ダム流木到達状況）	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-					
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		至近3年間の変動幅を上回り、また濁水長期化の傾向も長期化していることから、「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間（2～3週間：10度以下）の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×				
		6.魚類	39		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c					
		7.底生動物	41		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-					
		8.付着藻類	43		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-					
		30.ヒアリング	45		漁協ヒアリングにおいて「悪化傾向」および「悪い状態」の回答を得た。	C	c					
	(15)生物生息空間の連続性遮断	6.漁獲量（内水面）	46		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。	C	c	×				
		2.河床材料	49		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c					
		6.魚類	51		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c					
	7.底生動物	52		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						

着色凡例

	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A：改善傾向， B：維持傾向， C：悪化傾向
 【状態】 a：良い状態， b：普通状態， c：悪い状態

評価凡例

○：問題なく良いレベル
 △：普通のレベル
 ×：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2	付着藻類(出水時)は、調査結果の変動の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		30.ヒアリング	4	付着藻類の変化に関する漁協ヒアリングにおいて、「悪化傾向」の回答があった。状態は、ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	6	河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		17.写真観測(親水景観)	6	親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a						
	(18)生物生態生育環境の変化	1.水質	29	出水時の流量規模別濁度は、立石橋、八重原大橋で至近3年間の変動幅を上回り、また濁水長期化の傾向を示していることから、水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
		2.河床材料	35	河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c						
		4.河道形状	37	河道形状は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c						
		6.魚類	41	全体の種数・個体数は大きな変化がみられないが、アユやカマツカの個体数については至近3年間の変動幅を上回り、アユは恵後の崎、福瀬小学校前で、カマツカは東郷橋で既往最大を記録した。また、アユ産卵床は至近3年間の変動幅を上回ることから、総合的に「改善傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	A	c						
		7.底生動物	46	底生動物は地点により、種数や生息密度等の変動があり東郷橋(夏季)の増殖型指数がこれまでの調査結果をやや上回ったものの、全体で見ると至近3回と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「改善傾向」と評価される。	A	-						
		8.付着藻類	48	台風14号出水後、細胞数、クロロフィルa、種類数ともに増殖しているが、濁水の影響により細胞数、クロロフィルaは令和2年度と同程度であるが、クロロフィルaは至近3回の調査結果の変動の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c						
		9.河岸植生	49	今年度調査未実施のため、今回での評価対象外	-	-						
		29.水質、底生動物	51	方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.67点であることから「良い状態」と評価される。	B	a						
	30.ヒアリング	53	生物生態生育環境の方向性は、一部の漁協から「悪化傾向」の回答を得たことから、総合的に「悪化傾向」と評価される。状態は、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから、総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c							
	6.漁獲量(内水面)	54	方向性は、至近3年間(平成30年度～令和2年度)と比較すると「維持傾向」と評価される。(令和3年度評価)状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c							
	(19)瀬・淵の消失	4.河道形状	57	瀬、淵の数は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。令和4年度の早瀬と淵の数は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
	(20)橋脚の不安定化	5.河道縦横断	59	至近3年間(令和元年度～令和3年度)と比較すると、全ての橋脚基礎で大きな変化が見られないことから「維持傾向」と評価される。なお、写真観測においても大きな変化は見られない。状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	59	橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-						
	(21)護岸基礎部の被災	5.河道縦横断	64	護岸基礎部は、至近3年間(令和元年度～令和3年度)と比較すると、各横断における護岸付近の河床状況に大きな変化が見られないことから「維持傾向」と評価される。なお、写真観測においても大きな変化はみられない。横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	64	護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-						
	(22)取水の不安定化	1.水質	70	水質の方向性は水道原水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内であることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値を上回ることから「悪い状態」と評価される。	C	c	×					
5.河道縦横断		71	富島幹線水路は、大きな変化は見られないが、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから「維持傾向」及び「悪い状態」と評価される。	B	c							
24.写真観測(取水口堆砂状況)		71	取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-							
(23)治水安全度低下	5.河道縦横断	74	対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	C	c	×						
	18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	81	河川状況や構造物基礎の状況の大きな変化は見られない。	-	-							
(24)氾濫発生時の被害拡大	31.水害統計資料	98	台風14号により河川の浸水被害が発生したことから「悪化傾向」と評価される。状態は、浸水被害発生の可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度最大日流入量)を上回る流入量があり、浸水被害として被災家屋棟数は281棟であったことから「悪い状態」と評価される。	C	c	×						
	20.写真観測(洪水時流下状況)	99	台風14号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	-	-							

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向、B:維持傾向、C:悪化傾向
 【状態】a:良い状態、b:普通状態、c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
 △:普通のレベル
 ×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生態環境の変化	1. 水質 (海域: 出水時)	3	概ね至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。				
		3. 底質 (海域: 出水時)	7	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	C	a						
		6. 漁獲量 (海域)	9	至近3年間の変動幅を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	A	c						
		6. 漁獲量 (内水面)	9	至近3年間の変動幅を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。(参考:方向性は令和3年度評価)	A	c						
		7. 底生動物 (海域: 出水時)	11	概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	-						
		10. 藻場 (海域)	13	至近3年間で比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b						
	(26) 防災機能の低下	28. 航空写真 (汀線比較)	18	至近3回(平成26~28年)ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。(参考:平成30年度評価)	A	a	○					
	(27) 親水空間の減少	17. 写真観測 (景観・親水)	21	令和3年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○					
		28. 航空写真 (汀線比較)	23	至近3回及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。(参考:平成30年度評価)	A	a	○					
	(28) 港湾施設の埋没	25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	26	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	C	b	×					
	(29) 治水安全度低下	5. 河道縦横断	29	至近3年間の変動幅を下回ることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○					
	(30) 船舶の航行(操業上)の支障	5. 河道縦横断	34	至近3年間で航行必要深さ確保率の範囲と変わらないことから「維持傾向」と評価される。確保率は91%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	35	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	C	b						
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	36	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
		21. 写真観測 (海域漂流状況)	36	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	36	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	38	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	B	c						
	(31) 海岸環境悪化	30. ヒアリング	39	日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c	×					
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	42	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
	(32) 漁業(操業)の支障	26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	46	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×					
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	47	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	48	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-						
		6. 漁獲量 (海域)	49	至近3年間の変動幅を上回ることから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	A	c						
30. ヒアリング		50	漁協ヒアリングの結果「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c							
(33) 氾濫発生時の被害拡大	31. 水害統計資料	52	台風14号により浸水被害発生の可能性のある流量を上回る流入量があり、浸水被害として被災家屋棟数は281棟であったことから「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c	×						
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	53	台風14号発生後、流木の海岸漂着が一部見られた。	-	-							

着色凡例

黄色	: 治水面 (防災面)
水色	: 利水面 (水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和4年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	事務局評価		領域の評価	評価・改善委員会の評価
資料③-1	山地領域	(1) 崩壊地からの土砂流出	×	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 方向性について、ダム堆砂、河道縦横断、土砂除去量、ヒアリング（崩壊地からの土砂流出、自然景観の消失、産業基盤の流出）、渇水緩和機能の低下で「悪化傾向」であったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態について、ヒアリング（崩壊地からの土砂流出、自然景観の消失、産業基盤の流出）、漂着物量、河道縦横断で「悪い状態」であったが、その他の項目では概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(2) 土石流等の土砂災害の発生	○			
		(3) 自然景観の消失	△			
		(4) 生物生息生育環境の変化	△			
		(5) 産業基盤の流出	△			
		(6) 渇水緩和機能の低下	×			
		(7) 洪水緩和機能の低下	△			
		(8) 砂防施設容量減少	○			
資料③-2	ダム領域	(9) 貯水池末端部治水安全度低下	×	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 方向性について、ダム堆砂、水質、ヒアリング（漁獲量（内水面））に関して「悪化傾向」であったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態について、水質、ヒアリング（漁獲量（内水面）、河床材料、魚類）で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(10) 利水容量の減少	△			
		(11) 取水口の埋没	△			
		(12) 放流設備の機能障害	○			
		(13) 利水設備の機能障害	○			
		(14) 生物生息生育環境の変化	×			
(15) 生物生息空間の連続性遮断	×					
資料③-3	河道領域	(16) 付着藻類の変化	×	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 方向性について、水質、河道縦横断、水害統計資料、ヒアリング（付着藻類、河道形状、河床材料、魚類）に関して「悪化傾向」であったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態について、付着藻類、水質、河床材料、河道形状、魚類、河道縦横断、漁獲量（内水面）、水害統計資料、ヒアリング（付着藻類、河道形状、河床材料、魚類）に関して「悪い状態」の評価となり、総合的に「悪い状態」と評価される。 以上のことから、河道領域は総合的に「×」と評価される。	×	○ △ ×
		(17) 河川景観の変化	△			
		(18) 生物生息生育環境の変化	×			
		(19) 瀬・淵の消失	×			
		(20) 橋脚の不安定化	△			
		(21) 護岸基礎部の被災	△			
		(22) 取水の不安定化	×			
		(23) 治水安全度低下	×			
(24) 氾濫発生時の被害拡大	×					
資料③-4	河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 方向性については、底質、土砂除去量、水害統計資料、ヒアリング（船舶の航行（操業上）の支障、漁業（操業）の支障）に関して「悪化傾向」となったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態について、水質（海域）、漁獲量（海域）、漁獲量（内水面）、河道縦横断、漂着物量、水害統計資料、ヒアリング（船舶の航行（操業上）の支障、漁業（操業）の支障）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(26) 防災機能の低下	○			
		(27) 親水空間の減少	○			
		(28) 港湾施設の埋没	×			
		(29) 治水安全度低下	○			
		(30) 船舶の航行（操業上）の支障	×			
		(31) 海岸環境悪化	×			
		(32) 漁業（操業）の支障	×			
		(33) 氾濫発生時の被害拡大	×			
		総合評価	【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和4年は、山地領域、ダム領域、河口・海岸領域は普通レベル、河道領域は悪いレベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通レベル「△」と評価される。 しかしながら、悪い評価の問題・課題が見られることから、今後も引き続きモニタリングを継続しながら、各種行動計画を推進していく必要がある。		△	○ △ ×

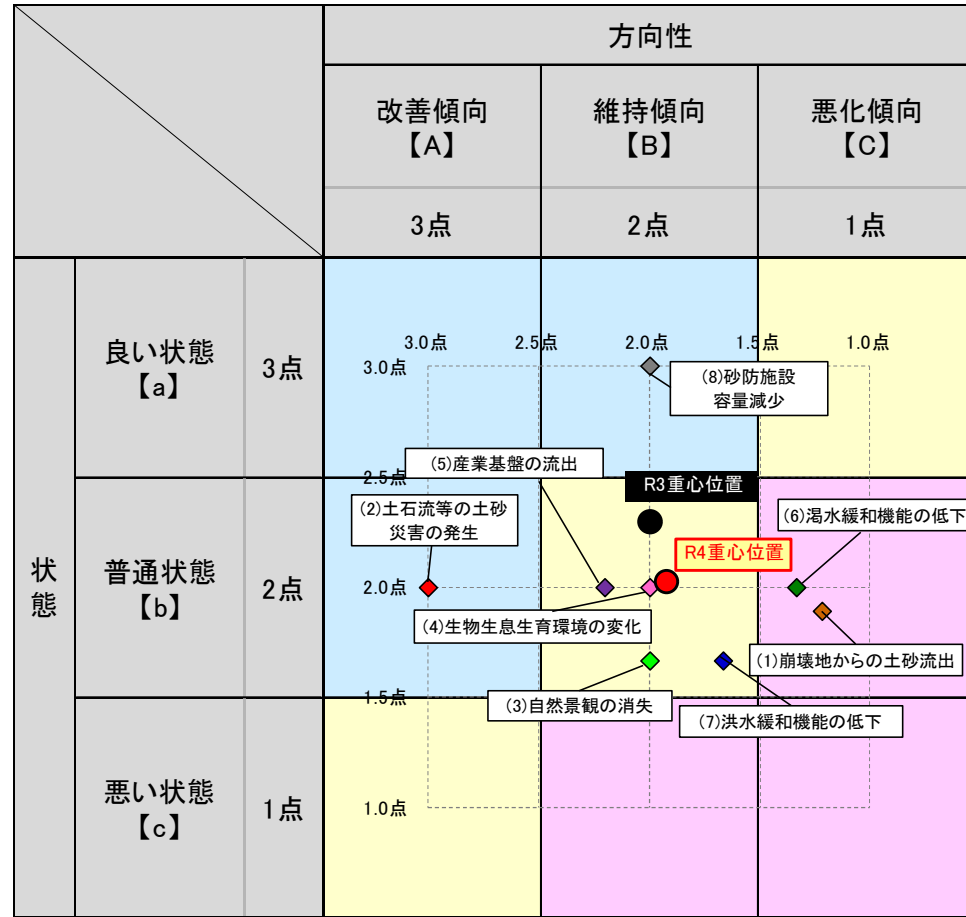
着色凡例

	治水面（防災面）
	利水面（水利用面）
	環境面

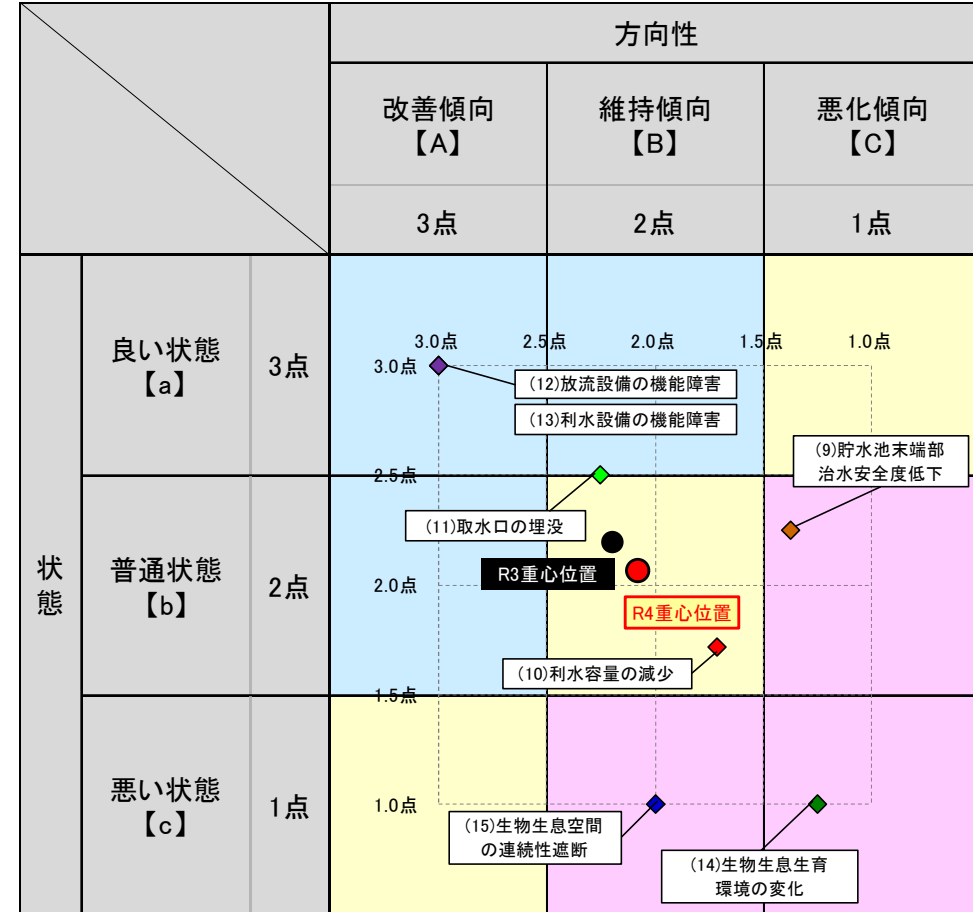
課題評価の凡例

○	問題なく良いレベル
△	普通のレベル
×	問題があり悪いレベル

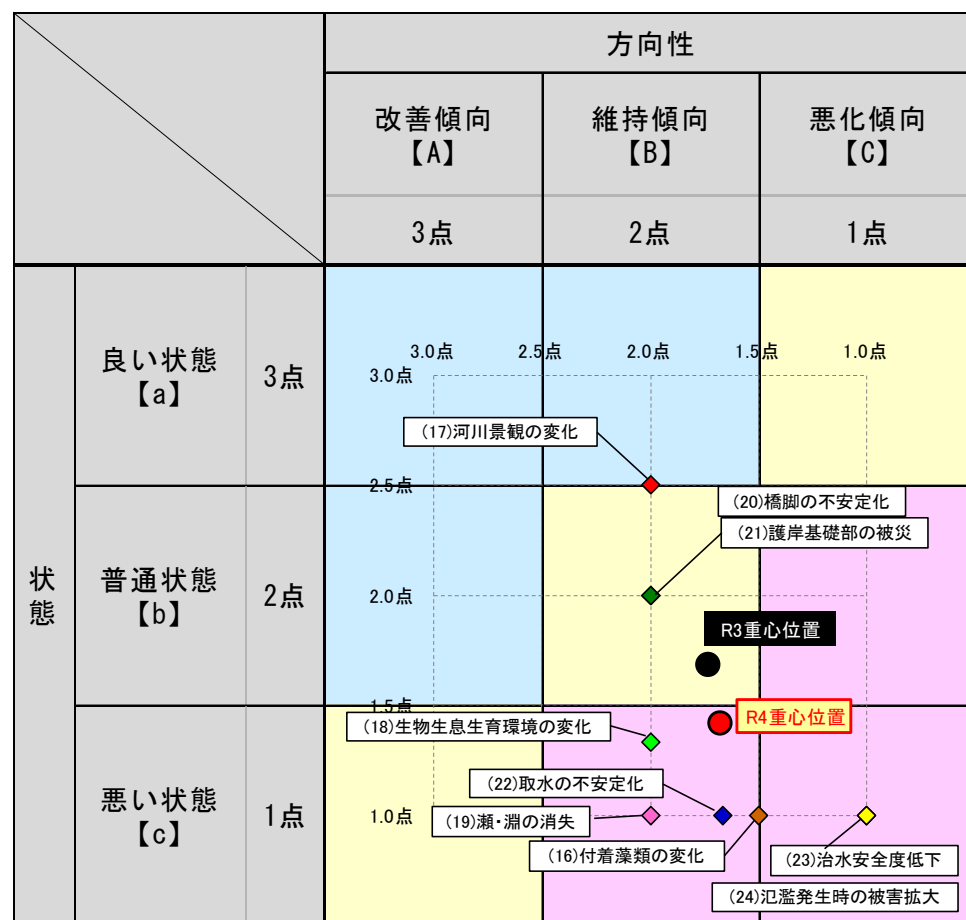
山地領域の総合評価（令和4年度）



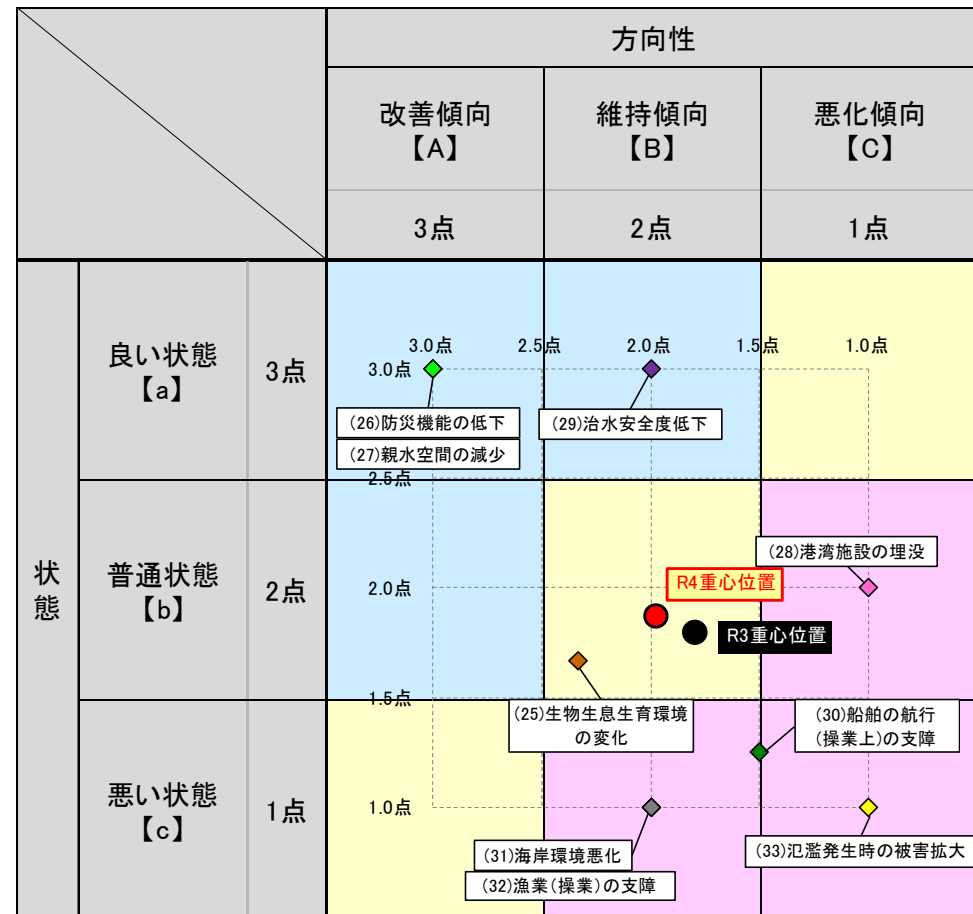
ダム領域の総合評価（令和4年度）



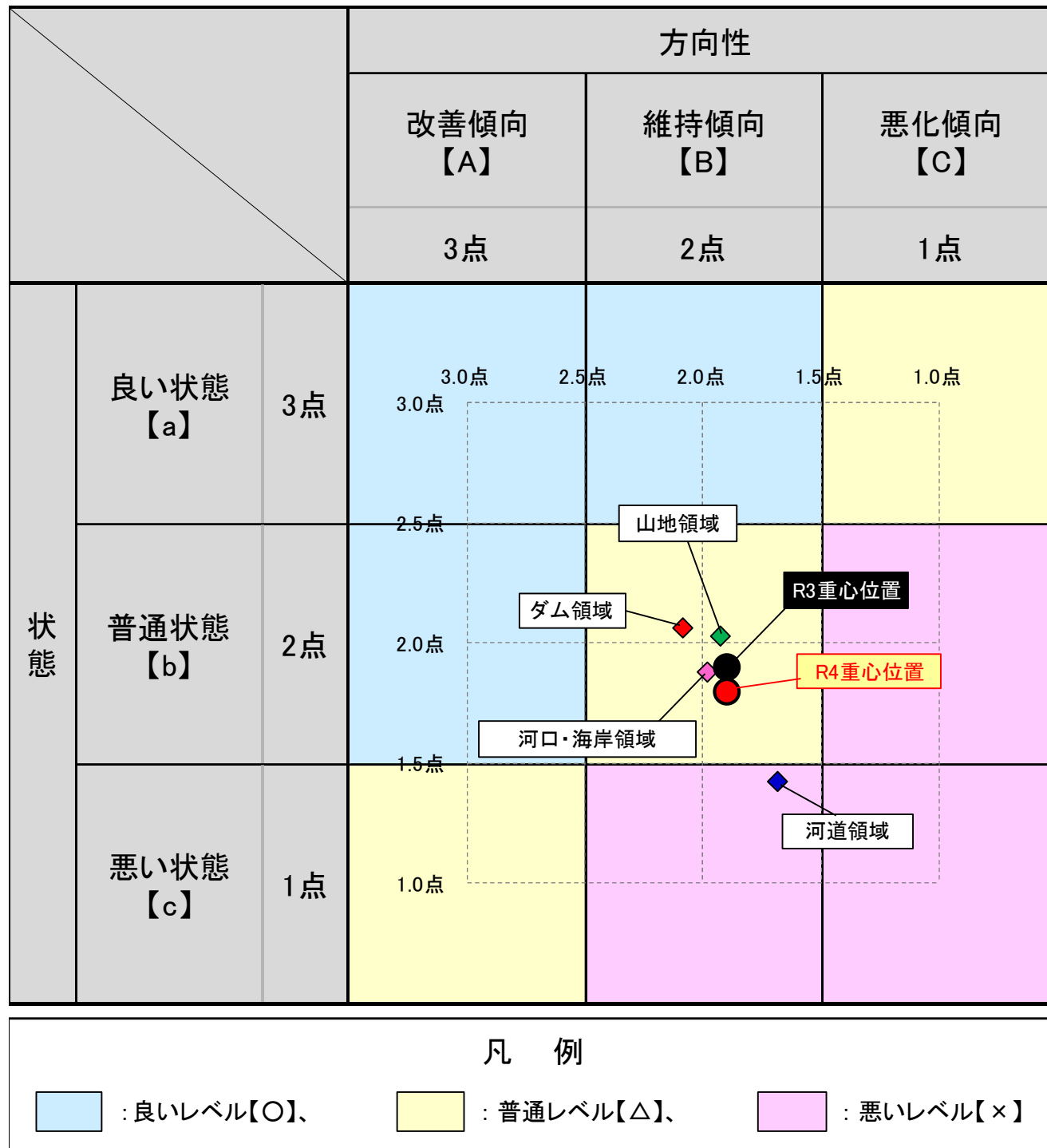
河道領域の総合評価（令和4年度）



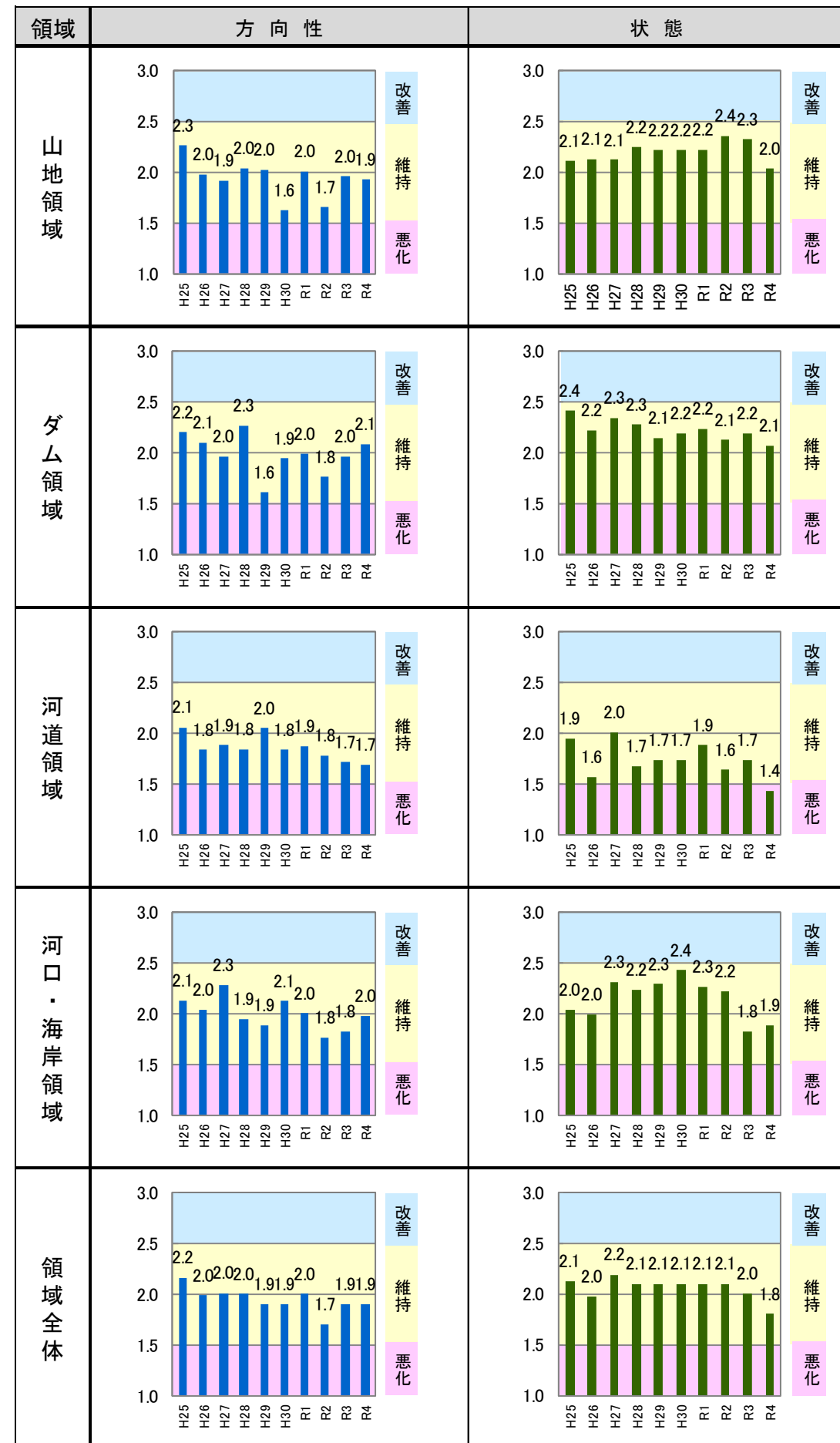
河口・海岸領域の総合評価（令和4年度）



耳川流域全体の総合評価（令和4年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。